



特集 パートナーシップによるまちづくり



CONTENTS

<特集>
パートナーシップによるまちづくり
～まちづくりシンポジウム&
まちづくり実践アカデミー成果発表会～ 2-3

<市町村探訪>
「美野里まちづくり会議」の活動(美野里町)
～都市計画マスタープランの策定にあたって～ 4-5

<まちづくり団体の取り組み>～こんなことやってます～
まちづくり、つむぎの里の手づくりイベント
「結城まちづくり研究会」(結城市) 6-7

<街角レポート> 8

<情報スクラップ> 9-11

<お知らせコーナー> 12

さる11月22日、常陸太田市生涯学習センターで「まちづくりシンポジウム2003」を開催しました。

今回のシンポジウムは、「魅力あるまちづくりを考える」をメインテーマに、基調講演、パネルディスカッションを行い、約260名の市民の皆さんや行政の担当者の方に参加いただきました。

あわせて、今年度の茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業の表彰式が行われました。

Vol 11

平成 16 年 1 月 7 日



特集 パートナースhipによるまちづくり

「まちづくりシンポジウム2003」

基調講演

自然，歴史，景観を活かしたまちづくり
～景観的名所づくりの視点から～
茨城大学工学部 小柳武和教授

(概要)

景観資源とは何かと言うと，山や建物といったものばかりではなく，例えば雨の名所などのように，形ではなく，四季や香りなどの変化自体を楽しめるものなどまで，幅広く含まれる。

そういった景観資源を楽しむことが大切で，楽しんでいる人がいると人が集まるようになり，そうすると賑わいができる。また，人が来ることによって，まちをきれいにしようとか，大切にしようとか思う気持ちが生まれてくる。

様々な事例をもとに，景観的名所の要件や意義・効用などを，わかりやすく説明され，さらに，開催地，常陸太田市のまちづくりについて，「台地」があることは大変いいことであり，これを活かす必要があると話された。台地にはいい視点場があるから，30分位歩いてもそこに行く「しかけ」を考えるといいのではないか。そのための具体策として，空き店舗の利用や，歴史的伝統を活かした界隈をつくることなどの提案をいただいた。



< 基調講演 >

パネルディスカッション

- ・コーディネーター：小柳武和教授
- ・パネリスト：
 - 塩原慶子氏（まいづる塾塾長）
 - 藤 馨氏（常陸太田市商工会理事）
 - 立川政子氏（合併協議会委員）
 - 渡邊速夫氏（常陸太田市都市計画審議会委員）
 - 栗田健二氏（常陸太田市助役）

パネリストの皆さんから，花のまちかどづくり活動など日頃行っている活動や，住民参加による事例の紹介，今までの行政経験からの提言や行政の取り組みなどについて，お話しをいただいた後，まちづくりの課題や問題点，解決策などについて活発に意見交換が行われました。

会場からも，具体的な提案がなされるなど，常陸太田のまちづくりについて，議論が盛り上がりました。

「うるおいのあるまちづくり顕彰事業」表彰式
平成15年度受賞者

【まちづくりグリーンリボン賞】

(株)日立ライフ

<「さわ野杜」住宅団地の造成>

里美村・(株)横須賀満夫建築設計事務所・日立土木(株)

<里美村立里美幼稚園の建設>

土浦市

<土浦城址周辺の歴史を生かしたまちづくり>

東海村

<東海駅西口駐輪場の整備>

和の風

<蔵の街真壁のひなまつり>

【まちづくりグッドサイン賞】

取手市・(株)乃村工藝社・(株)アレスコ

<取手市公共施設誘導サインの設置>

(課員 K.M)



「いばらきまちづくり実践アカデミー」

1. 事業の目的

「自分たちの住む町を魅力あるものにしたい」というのは、そこに住む人々みんなの願いです。でも、魅力あるまちというのは、静かなまちがいい、賑やかなまちがいいなど人によって考えるイメージは千差万別です。

そこで、住民や行政、企業がそれぞれの意見を出し合い、地域がどんな魅力あるまちをめざすのか、みんなで考えていくことが重要になります。

その際、様々な立場の人から意見を聞いて、まとめたり、地域の資源やまちづくりに携わる団体、人脈などを広く連携させていく、コーディネーター的役割を担う人材が必要です。

県では、このような人材を養成することを目的として、昨年度から「いばらきまちづくり実践アカデミー」を開設しています。

2. 事業の概要

今年度は、17名の受講生が「下館駅北口周辺地区の中心市街地のまちづくり」を研究課題として、8回にわたる実務研究に取り組みました。まちウォッチングを行い、まちの魅力や課題を把握するとともに、住民ヒアリングや公開ワークショップを通して様々な立場の住民の方から意見を伺いました。その後、まちの将来目標を設定し、実現に向けたプロセスを考えてきました。去る12月4日、下館市の地域交流センター「アルテリオ」で、下館市民や、市町村職員の参加のもと成果発表会を行うことができました。

< 実務研究
～公開ワークショップ >



問い合わせ先

茨城県土木部都市局都市計画課 都市行政G

TEL 029(301)4579 FAX 029(301)4599

E-mail toshikei-gyousei@pref.ibaraki.lg.jp

コーディネーターの養成という難しい課題に、事務局も手探りで進めてきましたが、受講生は悪戦苦闘しながらなんとか発表にこぎつけました。具体的なまちづくりのプロセスの提案とまではいきませんでした。街中にある蔵を活用した活性化策や、「アルテリオ」を市街地の住民とまわりの農村部の住民との交流の拠点とする構想など興味深い提案がなされました。



< 発表会 >



< 修了式 >

3. 事業を終わって

終了後、受講生から「まちづくりは、行政主導の時代ではなく、市民主導の時代がきている」「まちづくりは1人の意見がどんなに良いものでも、みんなに理解されないと実現できない。共通理解の場が必要だ」などの声が寄せられました。

まちづくりの現状は、計画段階からの市民参加の例が少ない、市民活動に対する支援体制が整備されていないなど、まだまだ発展途上の段階です。しかし、各地でまちづくり講座を実施したり、公園整備の段階から運営にまで地域住民が参加するなど、住民と行政が協働でまちづくりに取り組む事例も増えてきています。

今回の受講生の方々がそれぞれ地元に戻って、一人一人が牽引役となって、そこからまちづくり活動の新しい輪が広がっていくことを期待しております。

(編集委員 Y.N)